

第24回 福岡県地域エネルギー政策研究会 日下座長 総括コメント

- 本日、第24回福岡県地域エネルギー政策研究会を開催し、検討テーマを「長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）を踏まえた今後の地方の取組み」、サブテーマを「新たなエネルギー社会の実現に向けて」として、特にエネルギーの地産地消に重点を置いた議論を行いました。
- 今回の研究会では、最初に、当研究会の今後の活動について決定しました。
- 次に、事務局から「これまでの経過」として、前回の議論の概要や研究会報告書のフォローアップについて、報告がありました。
- 次に、経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課 再生可能エネルギー推進室の辻井室長補佐から、「更なる再エネ拡大を実現するためのエネルギー需給革新の推進～需給一体型モデルの活用～」と題して御講演をいただきました。

講演では、家庭、大口需要家、地域の、それぞれの視点から再生可能エネルギーの活用モデルについての事例紹介いただくとともに、今後の方向性について御教示いただきました。

今後の地方の取組みを考える上でも、貴重な情報を御提供いただけたと、辻井室長補佐には感謝しております。
- 次に、事務局から、「福岡県におけるエネルギー政策の取組状況と課題」について、報告がありました。
- 次に、一般社団法人 日本シュタットベルケネットワーク 正会員の白岩氏から、「電力市場整備と日本版シュタットベルケの取組み」について、御講演をいただきました。

講演では、電力市場整備の概要や、地域新電力会社の設立、地域活性化の取組みについて御教示いただくなど、エネルギーの地産地消を考える上で、大変有益なお話をいただきました。
- 次に、これらの講演・報告を基に、エネルギーの地産地消を実現するための地方の取組みについて委員間で討議を行いました。
- 各委員からの積極的な意見・助言により、「長期エネルギー需給見通しを踏まえた今後の地方の取組み」として、エネルギーの地産地消の取組みの方向性が示されましたので、県をはじめ各主体におかれては、今後の取組みに活かしていただきたいと考えております。